

ユーザーズ・マニュアル

_TAPE MELLO-FI

ARTURIA

_The sound explorers

スペシャル・サンクス

ディレクション

Frédéric Brun Kevin Molcard

開発

Samuel Limier (lead)	Baptiste Aubry	Geoffrey Gormond	Mathieu Nocenti
Mauro de Bari	Yann Burer	Rasmus Kürstein	Marie Pauli
Loris De Marco	Hugo Caracalla	Pierre-Lin Laneyrie	Patrick Perea
Alexandre Adam	Corentin Comte	Marius Lasfargue	Fanny Roche
Stéphane Albanese	Raynald Dantigny	Cyril Lépinette	
Marc Antigny	De Cecco Alessandro	Christophe Luong	
Kevin Arcas	Pascal Douillard	Pierre Mazurier	

デザイン

François Barrillon (lead) Ulf Ekelöf Morgan Perrier

サウンド・デザイン

Lily Jordy (lead) François Barrillon Jean-Michel Blanchet

テスティング

Julien Viannenc (lead)	Thomas Barbier	Germain Marzin	Roger Schumann
Arnaud Barbier	Matthieu Bosshardt	Aurélien Mortha	Adrien Soyer

チュートリアル

Stephen Fortner

マニュアル

Stephen Fortner (author)	Gala Khalife	Jimmy Michon	
Mathieu Diffort (MTH)	Minoru Koike	Holger Steinbrink	

ベータ・テスティング

Angel Alvarado	Adrian Dybowski	Paolo Negri	George Ware
Jeremy Bernstein	Mat Herbert	Davide Puxeddu	Elliot Young
Chuck Capsis	Jay Janssen	Mateo Relief vs MISTER X5	Chuck Zwicky
Marco "Koshdukai" Correia	Terry Marsden	Fernando Manuel Rodrigues	
Dwight Davies	Gary Morgan	Paul Steinway	

© ARTURIA SA – 2021 – All rights reserved.

26 avenue Jean Kuntzmann

38330 Montbonnot-Saint-Martin

FRANCE

www.arturia.com

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 21 December 2021

使用上のご注意

本マニュアルでは、Tape MELLO-FIの使用法や各種機能、ダウンロードとアクティベーション方法の詳細をご紹介します。

その前に、以下は重要な注意事項等です：

仕様変更について：

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものです。改良等のために仕様を予告なく変更することがあります。

重要：

本ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほどの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時間使用しないでください。

難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けてください。

注意：

知識不足による、誤った操作により発生した問題に対するサポートは、保証対象外となり料金が発生します。サポートのご依頼をされる前に、本マニュアルを熟読し、販売店とご相談ください。

はじめに

Tape MELLO-FIをお買い上げいただきありがとうございます

この度は、伝説的なテーププレイバック方式キーボードのMellotronのサウンドをベースとした刺激的なサウンドを自在に探求できるオーディオエフェクトのプラグイン、Tape MELLO-FIをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

優れた製品を開発するというArturiaの情熱は、Tape MELLO-FIにおいても例外ではありません。プリセットを選ぶだけでも、わずかにエディットするだけでも、完全に没頭するほどディープにダイブするのも、すべてお好み次第、思いのままです。

Arturiaのハードウェアやソフトウェアインストゥルメント、エフェクト、MIDIコントローラー等各種製品のチェックに、[Arturiaウェブサイト](#)をご活用ください。アーティストにとって不可欠で刺激的なツールが豊富に揃っています。

より豊かな音楽ライフを

The Arturia team

もくじ

1. Tape MELLO-FI へようこそ !	3
1.1. Mellotron とは ?	3
1.2. Mellotronはなぜローファイなのか ?	3
1.3. Tape MELLO-FI の主な特長.....	5
2. アクティベーションと最初の設定	6
2.1. 動作環境	6
2.2. ダウンロードとインストール	6
2.2.1. Arturia Software Center (ASC)	6
2.3. プラグインとして動作	7
2.3.1. オーディオとMIDIの設定	7
3. Overview	8
3.1. The User Interface	8
3.2. ステレオとデュアルモノ	8
3.3. 共通動作	9
3.3.1. 設定値のバックアップ	9
3.3.2. ダブルクリックでデフォルト値に	9
3.3.3. 右クリックで微調整	9
3.3.4. Control Descriptions - パラメーターの簡単な説明	9
4. Main Menu	10
4.1. プリセットの機能	10
4.1.1. New Preset	10
4.1.2. Save Preset	10
4.1.3. Save Preset As	11
4.1.4. Import	11
4.1.5. Export	11
4.2. Resize Window - リサイズウィンドウ	12
4.2.1. Maximize View Button - マキシマイズビュー	12
4.2.2. Tutorials - チュートリアル	12
4.2.3. Help	12
4.2.4. About	12
5. Select Presets - プリセットの選択	13
5.1. プリセットブラウザ	13
5.2. Searching Presets - プリセットのサーチ	14
5.2.1. Using Tags as a Filter - タグによるフィルタリング	14
5.2.2. Banks	16
5.3. The Results Pane - リザルトペーン	16
5.3.1. プリセットの並べ替え	16
5.3.2. プリセットに"いいね"をつける	16
5.3.3. おすすめファクトリープリセット	17
5.3.4. シャッフルボタン	17
5.4. Preset Info Section - プリセット情報	18
5.4.1. クイックメニュー	19
5.4.2. 複数のプリセットの情報を編集する	20
5.5. Preset Name Pane - プリセットネームペーン	21
5.5.1. 矢印ボタン	21
5.5.2. ドロップダウンブラウザ	21
6. Main Control Panel	22
6.1. Preamp Section	22
6.1.1. Drive	23
6.1.2. Tone	23
6.1.3. Noise	23
6.1.4. VU Meter	24
6.2. Tape Section	25
6.2.1. Wow and Flutter	25
6.2.2. Wear	25
6.2.3. Mechanics	25
6.3. Tape Stop	26
6.3.1. Flywheel	26
6.3.2. Tape Stop Button	26
6.3.3. Stop Speed Menu	27

6.4. Output Section.....	28
6.4.1. Bypass Switch.....	28
6.4.2. Output.....	28
6.4.3. Filter	28
7. The Lower Toolbar.....	29
7.1. Control Description Area - パラメーター説明エリア	29
7.2. Stereo Width.....	29
7.3. Tape Catch-Up.....	29
7.4. Bypass.....	29
7.5. Undo, Redo, and History.....	30
7.5.1. Undo	30
7.5.2. Redo	30
7.5.3. History.....	30
7.5.4. CPU Meter	30
7.5.5. Panic.....	30
7.6. Have Fun!.....	31
8. ソフトウェア・ライセンス契約	32

1. TAPE MELLO-FI へようこそ！

Tape MELLO-FI をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。Arturiaは、イノベーティブで人気の高いシンセサイザーやMIDIコントローラー、バーチャルインストゥルメント、エフェクト等を開発してきました。

Tape MELLO-FI はソフトウェアインストゥルメントの Arturia Mellotron V をベースにした強力なロープ アイエフェクト・プラグインで、オーディオトラックの質感をビンテージなMellotronの独特なものに変えることができます。使い方はいたってシンプルで、音の変化がわかりやすく、簡単に目立つサウンドにすることができます、リスナーからは「あの音はどうやって作ったの？」と聞かれるようになるかも知れません。

基本的に、Tape MELLO-FI はどんなオーディオトラックでもMellotronで演奏したような質感にします。(ただし Tape MELLO-FI はバーチャルインストゥルメントではありません。インストゥルメントをご希望の際は [Mellotron V](#)をご使用ください。)

1.1. Mellotron とは？



Credit: Wikimedia Commons

Hal Chamberlinが発明したMellotronは、本質的にサンプラーの元祖と言えるでしょう。音をデジタルメモリーに録音するのではなく一もとでも1960年代当時にそのようなものは存在していませんでしたが—アナログテープを使用していました。ストリングスやブラスなどの本物の楽器音を、オルガン的なキーボードで演奏できたら…という発想のもとに開発された楽器でした。



Credit: Museum of Making Music via Wikimedia Commons

Mellotronの内部にはキーボードのキー1つずつに対応するテープの束が入っています。キーボードを弾くと2つのことが起こります：まず、キャプスタンとピッチローラーの間に挟まっているテープを送り出し、テープが再生ヘッドに押し付けられて音が出るという仕掛けになっていました。テープはループしませんが約8秒ほどの長さがあり、キーを放すとバネ仕掛けでテープが先頭に戻るようになっていました。

最初のモデルは1959年に開発されたもので、元々は家庭用オルガンの代わりとして開発され、横1列に並んだ2組のキーボードの左側ではバンド演奏による伴奏を再生することができました。



Credit: Museum of Making Music via Wikimedia Commons

最も人気の高かったモデルは1960年代後半に登場したM400で、それなりにスタッフが揃っているバンドであればツアーに持ち出せる程度にはポータブルなサイズのものでした。M400のテープは3トラック構成で、ノブを回すと再生ヘッドの位置が移動してそれぞれのトラックに録音された音を再生できたため、プレイヤーは手元で音色を切り替えることができました。ですが切り替えられる音色は物理的に3つのみでしたので、それ以上の音色バリエーションが欲しいときにはテープをすべて交換する必要がありました。

数々の不便がありつつも、キーボードプレイヤーがオーケストラのようなサウンドを演奏できたのは Mellotronだけで、そのサウンドはMoody Bluesなど数多くのアーティストの楽曲で耳にすることができます。もちろん、The Beatlesの"Strawberry Fields"のイントロで聴かれるフルートもMellotronの音です。

1.2. Mellotronはなぜローファイなのか？

どんなにていねいに扱ったとしても、テープは劣化します。Mellotronを演奏するということは、テープの再生と巻き戻しを何度も何度も繰り返すことになりますから、アルバムのテープを聴くのとは桁違いに過酷な状況をテープに強いることになります。

さらに、機械式の再生システムは完璧ではなく、テープの音を出力するための電子回路も当然ビンテージなものですから望むべくもありません。

こうしたことの1つ1つがMellotronのサウンドを孤高のものにさせ、そのレトロ感あふれる他では味わえないものにさせています。そのため、当時は不完全と思われていた機材も、今では人気の的です：B-3オルガンの迫力あるサウンド、真空管の歪み、8ビットサンプラー、そしてMellotronのテープもその1つと言えるでしょう。

Tape MELLO-FI では、そうしたキャラクターをシンプルながらも強力な各種コントロールでお好みで調整して出すことができます。

1.3. Tape MELLO-FI の主な特長

Tape MELLO-FIは、Mellotron M400の音の質感を忠実に再現し、以下のような機能も備えています：

- 調整可能なDrive (テープサチュレーション) とBoostモードでさらなるオーバードライブが得られます。
- 自動ゲイン補正機能でDriveを上げても録音時にレベルオーバーによるクリップを防止できます。
- Mellotronの回路のEQカーブを忠実に再現したトーンコントロール。
- 1ノブスタイルのローパス/ハイパスフィルターで音作りができます。
- テープノイズ(ヒスノイズ)を調節可能。
- Mellotronのライホイール由来のメカニカルノイズを調節可能。
- テープの劣化度を調整可能。
- Mellotronのモーター速度の不安定さを再現できるワウ & フラッター機能。
- ステレオで広がりのあるサウンドにできるステレオスプレッド機能。
- テープ停止時と立ち上がり時のスピードとピッチ変化を再現できるテープストップ機能。
- 出力ゲインコントロール。

では、Tape MELLO-FIを使い始めていきましょう！

2. アクティベーションと最初の設定

2.1. 動作環境

Tape MELLO-FIは、Windows 8.1以降、またはmacOS 10.13以降のコンピュータで動作し、レコーディングソフトウェア (DAW) のAudio Units, AAX, VST2, VST3プラグインとして動作します。なお、Tape MELLO-FIはプラグイン版のみで、スタンドアローンモードはありません。



2.2. ダウンロードとインストール

Tape MELLO-FIは、[Arturia Productsページ](#)で Buy Now または Get Free Demo のいずれかをクリックすることでダウンロードできます。フリーデモ版は20分間のみの時間限定動作になります。

ダウンロードが済みましたら、次はArturiaアカウントを作成しましょう。[My Arturiaページ](#)で表示される指示に従ってアカウントを作成してください。

Tape MELLO-FIをインストールしましたら、次はその製品登録をしましょう。製品登録は、他のArturiaソフトウェアも含めて一元管理できるArturia Software Centerというアプリケーションで行います。

2.2.1. Arturia Software Center (ASC)

ASCのインストールがまだでしたら、こちらにアクセスしてください：[Arturia Downloads & Manuals](#)

Arturia Software Centerはページのトップ付近にあります。お使いのシステムに合ったインストーラー(WindowsまたはmacOS用)をダウンロードしてください。ASCはお持ちのArturiaアカウントのリモートクライアントで、お持ちのArturiaソフトウェアの全ライセンスの管理やソフトウェアのダウンロード、アップデートなどをワンストップで行える便利なアプリケーションです。

ASCのインストールが済みましたら、次の操作をします：

- Arturia Software Center (ASC) を起動します。
- お持ちのArturiaアカウントでログインします。
- ASCの画面を下にスクロールして "My Products" セクションを表示させます。
- 使用したいソフトウェア名 (この場合はTape MELLO-FI) の隣にある 'Activate' ボタンをクリックします。

これで準備完了です！

2.3. プラグインとして動作

Tape MELLO-FIは、Cubase, Digital Performer, Live, Logic, Pro Tools, Studio Oneなど主要なデジタルオーディオワークステーション (DAW) のプラグインとして動作します。プラグインにはハードウェアはない、次のようなメリットがあります：

- お使いのコンピュータのCPUが耐えられる範囲で複数のTape MELLO-FIを同時に使用することができます。
- DAWのオートメーション機能を使用してプラグインのパラメーターを自動制御することができます。
- プラグインの各種セッティングはDAWのプロジェクトの一部としてセーブされ、次回そのプロジェクトを開いたときに以前と同じセッティングを再現できます。

2.3.1. オーディオとMIDIの設定

Tape MELLO-FIはプラグイン動作のみですので、オーディオやMIDIに関する各種設定はレコーディングソフト (DAW) で行います。これらの設定はブリファレンスにあることが一般的ですが、具体的な設定方法はレコーディングソフトによって違いがありますので、オーディオインターフェイスの選択方法やオーディオ出力、サンプルレート、MIDIポート、プロジェクトのテンポ、バッファサイズ等々の設定方法の詳細につきましては、お使いのレコーディングソフトのマニュアル等をご参照ください。



♪ 一般的に、バッファサイズを大きくするとオーディオデータを処理するサイクルが長くなってCPU負荷が軽減されますが、レイテンシー (信号の遅れ) が大きくなり、音が遅れて聴こえてしまいます。反対に、バッファサイズを小さくするとレイテンシーは軽減されますが、CPU負荷は重くなります。最近の速いコンピュータでしたらTape MELLO-FIは複数を同時使用していても軽快に動作します。もちろん、プロジェクトの規模にもよりますが。

ここまででソフトウェアの設定は完了しました。次のチャプターからは各種機能をご紹介します。

3. OVERVIEW

このチャプターでは、Tape MELLO-FIのメインコントロールエリアの概略と、各コントロール類の動作をご紹介します。

3.1. The User Interface

Tape MELLO-FIの画面は下表のようなエリアに大別できます。



番号	エリア	内容
1.	Main Menu [p.10]	プリセットのセーブやインポート、画面サイズの調整、アプリ内チュートリアルなどの機能にアクセスします。
2.	Preset Browser and Name Pane [p.13]	選択したプリセット名の表示、プリセットの切り替え、プリセットブラウザの表示を行えます。
3.	Main Control Panel [p.22]	Tape MELLO-FIの音作りを行うメインコントロール部です。
4.	Lower Toolbar [p.29]	ツールチップやエディット履歴、パニックボタンなどの機能が入っています。



♪ 各エリアの操作方法等につきましては以後のチャプターでご紹介します。

3.2. ステレオとデュアルモノ

Tape MELLO-FIのアウトプットは常時2チャンネルで、次の2タイプでオーディオトラックに立ち上げることができます：

- **Stereo**：モノトラックをステレオ化するのに最適です。
- **Dual Mono**：ステレオトラックでの使用に適したモードで、トラックのステレオイメージを崩したくないときに使用します。

3.3. 共通動作

Tape MELLO-FIのインターフェイスの多くは、一貫した操作性を実現するために、プラグイン全体で同じように動作します。

3.3.1. 設定値のポップアップ



これはツールチップとも呼ばれるもので、ノブを操作するとポップアップが表示され、その設定値をリアルタイムで表示します。Output Gain と Noise ノブの場合は設定値がdB単位で表示されますが、それ以外のパラメーターではパーセント表示になります。

3.3.2. ダブルクリックでデフォルト値に

どのノブでもダブルクリックするとそのデフォルト設定値に戻ります。デフォルト設定値は、エフェクトがほとんどかかっていないか、まったくかかっていない状態の値です。Output Gainのデフォルト値は0dBで、オーディオトラックの信号レベルそのままのレベルになります。

3.3.3. 右クリックで微調整

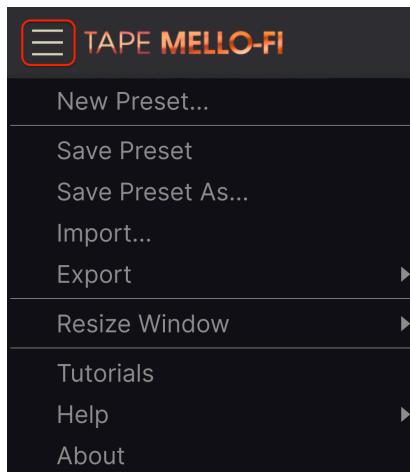
ノブを右クリック、またはcontrol-クリック (controlキーを押しながらクリック) するとマウス等の操作に対してノブがゆっくりと動き、細かな調整をしやすくなります。

3.3.4. Control Descriptions - パラメーターの簡単な説明



ノブなどのコントロール類にマウスオーバーしたり、動かしたりすると、画面の左下にそのコントロール類の簡単な説明が表示されます。

4. MAIN MENU



画面左上の"ハンバーガー"アイコン (横3本線) をクリックするとドロップダウンメニューが開き、重要な機能がいくつか入っています。1つずつ見ていきましょう。

4.1. プリセットの機能

Tape MELLO-FIは、すべてのセッティングを含んだプリセットのセーブや呼び出しができます。別の音色に変更するには、プラグインの画面内ですぐにプリセットを切り替えることもできますし、選択したプリセットのセッティングを変更した場合はそれをセーブすることもできます。それから、すべてのセッティング等をDAWのプロジェクトにセーブすることができます。

4.1.1. New Preset

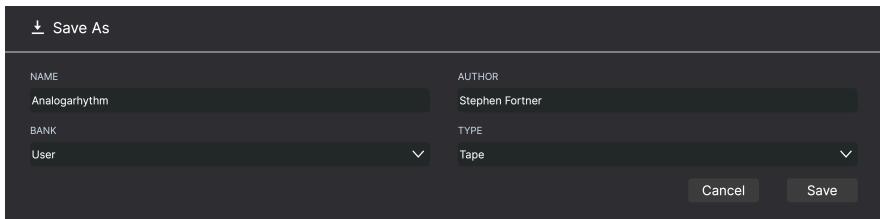
全パラメーターがデフォルト値の新規プリセットを作成します。

4.1.2. Save Preset

プリセットのセッティングを変更したあと、元のプリセットに上書きセーブします。このコマンドはユーザー・プリセットでのみ使用でき、ファクトリー・プリセットではこのコマンドはグレーアウト表示になります。

4.1.3. Save Preset As

プリセットのセッティングを変更したあと、そのプリセットを別名でセーブします。このコマンドを選択するとこれからセーブするプリセットに名前をつけたり、詳細情報を入力するウィンドウが開きます：



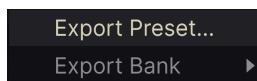
♪ Bank, Author, Typeの各フィールドに情報を入力しておくと、あとでプリセットブラウザ [p.13]でサーチするときに便利です。

4.1.4. Import

このコマンドはプリセット1個分のみ、またはバンク全体のプリセットファイルをインポート（読み込み）するときに使用します。このコマンドを選択すると、OSレベルのファイルブラウザが開き、インポートしたいファイルを探すことができます。Tape MELLO-FIのプリセットとバンクファイルはともに同じ拡張子 **.mtx** が付きます。

4.1.5. Export

このコマンドでプリセットをコンピュータにファイルとしてエクスポート（書き出し）できます。エクスポートするファイルは2タイプあり、1つはプリセット1個分のみのファイル、もう1つはバンク全体のファイルです。どちらの場合でも、OSレベルのファイルブラウザが開き、ファイルをエクスポートする場所を指定できます。



- **Export Preset**：プリセット1個のみを他のユーザーとシェアしたいときに使用します。書き出したファイルは **Import** メニューオプションで読み込むことができます。
- **Export Bank**：バンク全体のプリセットを1つのファイルとして書き出します。バンクごとのプリセットをシェアする場合に便利です。書き出したファイルは **Import** メニューオプションで読み込むことができます。

4.2. Resize Window - リサイズウィンドウ

Tape MELLO-FIの画面は50%～200%の範囲で画質が変わることなくリサイズできます。デフォルトサイズは100%です。ラップトップなどスクリーンが小さめの場合は画面を縮小してSQ80 Vだけでスクリーンを占拠させないようにすることもできます。大型スクリーンやセカンドモニターでご使用の場合は、拡大表示の見やすい状態で操作できます。

4.2.1. Maximize View Button - マキシマイズビュー

Tape MELLO-FIの画面を拡大すると、一部のパラメーターは画面に表示しきれなくなり、下図のようなアイコンが画面右下に表示されます：



このアイコンをクリックすると、お使いのコンピュータのスクリーンサイズに合わせて画面をリサイズとセンタリングします。

4.2.2. Tutorials - チュートリアル

Explore The Effect

Welcome to Tape MELLO-FI

Output, Drive, and Tone

Noises

Tape Physics

Bottom Toolbar

Tape MELLO-FIには各種機能を紹介するインタラクティブなチュートリアルが内蔵されています。このオプションをクリックすると画面右側にチュートリアルの各タイトルが表示されます。タイトルを選択するとチュートリアルが始まり、関連するコントロール類がハイライト表示になります。

4.2.3. Help

Arturiaウェブサイト内のユーザーマニュアルやFAQ(よくある質問)へのリンクがあります。これらを使用するときは、インターネットに接続する必要があります。

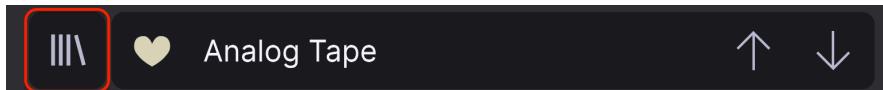
4.2.4. About

Tape MELLO-FIのソフトウェアバージョンと開発者のクレジットが表示されます。画面の任意の位置をクリックするとポップアップ画面が閉じます。

5. SELECTING PRESETS - プリセットの選択

Tape MELLO-FIでは、プリセットのブラウズ、サーチ、選択を、プラグイン内のブラウザスタイルのインターフェイスで行えます。ユーザーインクにオリジナルのプリセットを作成したりセーブすることもできます。もちろん、プラグインで選択しているプリセットを含むその時の状態は、DAWのプロジェクトをセーブするときに一緒にセーブされますので、いつでもセーブ時点での状態を再現できます。

5.1. プリセットブラウザ



"書棚の本"のようなアイコン (|||\) をクリックするとプリセットブラウザが開きます。

プリセットブラウザは3つのエリアに分割されています。下表をご覧ください：

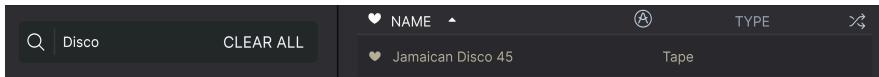
NAME	TYPE
fat analog	tape
lo-fi hi pass	tape
late night drive	tape
subtle width	tape
drum warmer	tape
1920	tape
crappy radio	tape
crispy rain	tape
duct tape blues	tape
grainy hi-pass	tape
gritty synth disto	tape
hard drive	tape
jamaican disco 45	tape
metal analog	tape

番号	エリア	内容
1.	Search [p.14]	入力したテキストや、Type, Style, Bankの各フィルターでプリセットをサーチします。
2.	Results Pane [p.16]	サーチした結果が表示されます。サーチしていないときは全プリセットが表示されます。
3.	Preset Info [p.18]	プリセットの詳細情報が表示されます。ユーザーインクのプリセットは詳細情報の内容を編集できます。

5.2. Searching Presets - プリセットのサーチ

画面左上のサーチフィールドをクリックすると、検索ワードを入力できます。プリセットブラウザは、次の2つの方法でプリセットをサーチします。1つ目は、サーチフィールドに入力した文字列と一致するプリセット名をサーチします。2つ目は、検索ワードがTypeやStyle [p.14]タグ名に近い場合、そのタグを含んだプリセットもサーチします。

サーチ結果はリザルトペーンに表示されます。CLEAR ALLをクリックすると検索ワードが消去されます。



	NAME	TYPE
♥	Jamaican Disco 45	Tape
...		

サーチフィールドに検索ワードを入力してフィルタリング

5.2.1. Using Tags as a Filter - タグによるフィルタリング

タグを使用することでサーチ対象を絞り込む(時には広がってしまうこともあります)ことができます。タグには2タイプがあり、1つは **Types**、もう1つは **Styles** です。2つのタイプのどちらかだけを使用することも、両方を併用することもできます。

5.2.1.1. Types

タイプはオーディオエフェクトのカテゴリーで、tape, distortion, EQ, modulationなどがあります。サーチフィールドに何も入力していない状態で **Types** のドロップダウンメニューをクリックすると、タイプのリストが表示されます。タイプにはサブタイプ(より複雑な構成のArturiaエフェクトプラグインでは特に)があることもありますが、Tape MELLO-FIは比較的のシンプルですので "Tape" が最もよく見られるタイプです。

タイプのいずれか1つをクリックすると、そのタグを含んでいるプリセットのみが表示されます。コマンド+クリック(macOS)またはCtrl+クリック(Windows)で複数のタイプを同時に選択できます。例えば、探しているプリセットのタグがKeysなのかPadなのか不確かなときは両方を選択してサーチ対象を広げることができます。

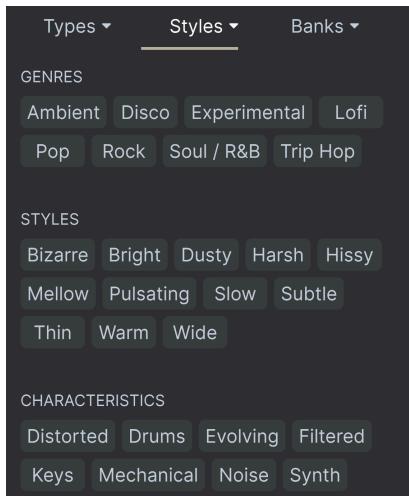
リザルトペーンに表示されたリストは、コラムのタイトル (Name, Type, Designer) の右にある矢印ボタンをクリックして並び順を反転させることができます。



♪ プリセットのセーブ [p.11]時にタイプを特定することができます。そのようなプリセットは、セーブ時と同じタイプを選択するとサーチ結果に表示されます。

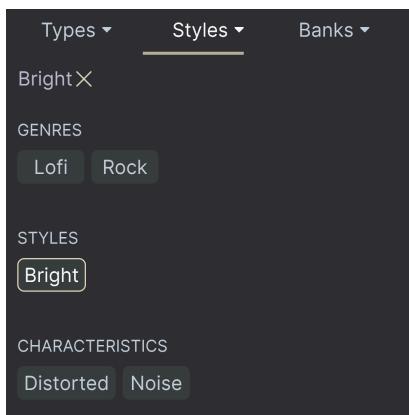
5.2.1.2. Styles

スタイルというのは、つまり…スタイルです。Styles ボタンをクリックするとアクセスでき、このエリアには3つの詳細カテゴリーがあります：



- *Genres* : Ambient, Disco, Experimentalなどの音楽ジャンル
- *Styles* : Bizarre, Mellow, Pulsatingなど、一般的な雰囲気
- *Characteristics* : Distorted, Evolvingなど、より詳細なプリセットの特徴

タグを選択すると、通常はその他のタグがいくつか非表示になります。



これはブラウザが該当しないものを対象外にすることで絞り込みサーチをしているためです。タグの選択を解除すると、サーチを最初からやり直すことなくサーチ対象を広げることができます。また、上部に表示されたタグ名の右にあるXをクリックすることでそのタグを外すこともできます。

プリセットのサーチは、検索ワードによるサーチ、TypesとStylesによるサーチ、そしてその両方を使うことができ、その場合はさらに絞り込んだサーチが行なえます。サーチバーにある CLEAR ALL をクリックするとTypesやStyleのタグと検索ワードをすべて消去します。

5.2.2. Banks

TypesとStylesの隣りにあるドロップダウンはBanksで、サーチ対象をファクトリーかユーザーバンクのどちらかに限定することができます。

5.3. The Results Pane - リザルトペーン

プリセットブラウザの画面中央部にはサーチ結果が表示されます。サーチをまったくしていない状態ではバンク内の全プリセットが表示されます。プリセット名をクリックするとそれがロードされます。

5.3.1. プリセットの並べ替え

表示されているプリセットのリストの最初のコラムにある NAME ヘッダをクリックすると、プリセットのリストがABC順の昇順または降順にソートします。

2つ目のコラムの TYPE ヘッダをクリックと同じことがタイプで起こります。

5.3.2. プリセットに"いいね"をつける

プリセット名の左にあるハートマークをクリックすることでプリセットをマーキングすることができます（このアイコンはメインのプリセットネームペーン [p.21]にも表示されます）。ハートマークをクリックしたプリセットは、下図のようにサーチ結果リストのトップに表示されます：

NAME	TYPE	
1920	Tape	
Analog Tape	Tape	
Crappy Radio	Tape	
Crispy Rain	Tape	
Drum Warmer	Tape	
Fat Analog	Tape	

クリックされた（"いいね"が付いた）ハートマークは中が白く塗りつぶされます。輪郭線だけのハートマークは（まだ）クリックされていないプリセットです。クリックされたハートを再びクリックすると"いいね"が解除されてリストのトップからは消えて元の位置に戻ります。

5.3.3. おすすめファクトリープリセット

Arturiaロゴが付いているプリセットは、Tape MELLO-FIの各種機能を雄弁に物語っているプリセット、つまりおすすめのファクトリープリセットです。

NAME	TYPE	
Lo-Fi Quiver	Ⓐ Tape	
Fat Analog	Ⓐ Tape	
Lo-Fi Hi Pass	Ⓐ Tape	
Rhodes Warmer	Ⓐ Tape	
Late Night Drive	Ⓐ Tape	
Subtle Width	Ⓐ Tape	
Drum Warmer	Ⓐ Tape	
Wow Tape Stop	Ⓐ Tape	

Clicking the Arturia icon at the top of the Results pane causes all featured Presets to appear at the top of the list. リザルトペーンのトップにあるArturiaアイコンをクリックすると、リストのトップにおすすめプリセットが表示されます。

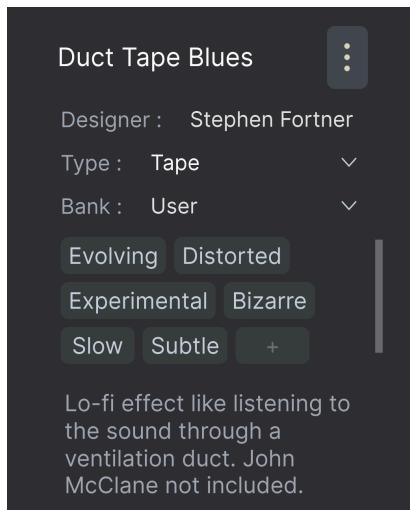
5.3.4. シャッフルボタン



このボタンをクリックするとプリセットリストをランダムに並べ替えます。リスト全体を1つずつ見ていくよりも、探していたプリセットが見つかりやすくなることもあります。

5.4. Preset Info Section - プリセット情報

プリセットブラウザの右側には各プリセットの情報が表示されます。



Save Asコマンドでセーブしたプリセット、つまりユーザーバンクのプリセットには、プリセットの各種情報を入力したり編集することができ、リアルタイムにアップデートされます。情報には、プリセットの作者、Type、すべてのStyleタグのほか、表示エリアの下部にはメモを入力できるエリアもあります。

プリセット情報を編集するには、テキストフィールドの情報はそこに入力します。BankやTypeはプルダウンメニューで変更できます。また、+ サインをクリックしてStylesの追加や削除ができます。リザルトペーンのスペースにすべてのオプションが表示されます：

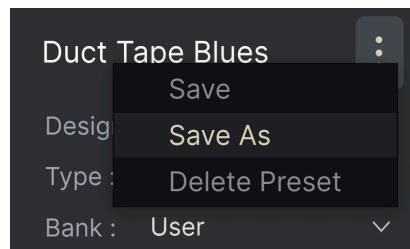


Styles, Genres, Characteristicsの各タググループの最後に + サインがあります。そうです—オリジナルのタグを作ることもでき、それを今後のサーチに利用することができるのです！

 TypesとStylesを変更すると、それがサーチ結果にも反映されます。例えば、あるプリセットにあった "Experimental" のStyleタグを外すと、次にそのタグでサーチをしてもそのプリセットは表示されません。

5.4.1. クイックメニュー

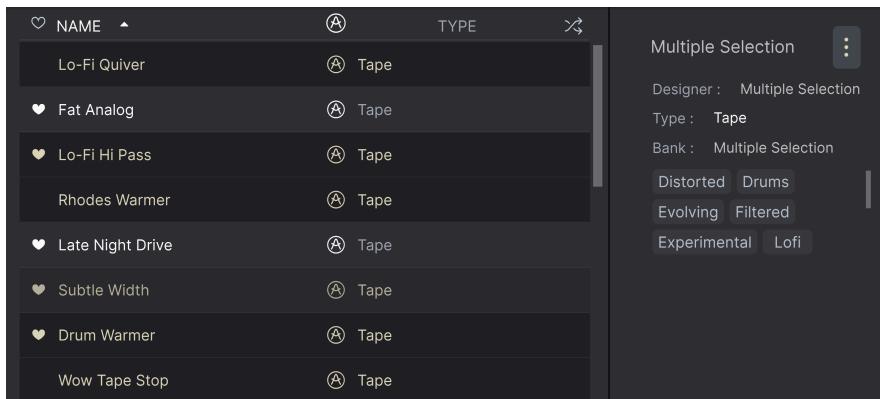
ドットが縦に3つ並んだアイコンをクリックすると、Save, Save As, Delete Presetのクイックメニューが開きます：



ファクトリーバンクのプリセットでは、Save Asのみが使用できます。

5.4.2. 複数のプリセットの情報を編集する

複数のプリセットのTypes、Styles、作者名、メモを同時に編集することも簡単に行なえます。同時に編集したいプリセットをリザルトペーンのリストでコマンド (macOS) または Ctrl (Windows) キーを押しながらクリックして選択します。次に、TypesやStylesを変更したり、コメント欄にメモを入力するなどして、セーブして完了です。



NAME	TYPE
Lo-Fi Quiver	Tape
Fat Analog	Tape
Lo-Fi Hi Pass	Tape
Rhodes Warmer	Tape
Late Night Drive	Tape
Subtle Width	Tape
Drum Warmer	Tape
Wow Tape Stop	Tape

Multiple Selection

Designer : Multiple Selection

Type : Tape

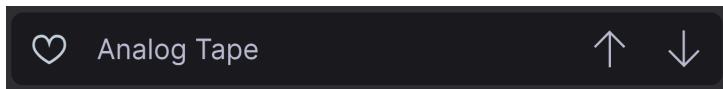
Bank : Multiple Selection

Distorted Drums

Evolving Filtered

Experimental Lofi

5.5. Preset Name Pane - プリセットネームペーン



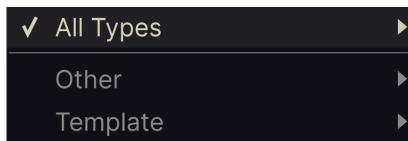
ネームペーンは、プリセットブラウザが開いていても、あるいはメインパネルが開いている状態でも、常に画面最上部センターに表示されます。ここには当然ながら選択しているプリセット名が表示されますが、プリセットをブラウズしたりロードする機能も備えています。

5.5.1. 矢印ボタン

プリセット名の右にある上下の矢印ボタンをクリックすると1つ次、または1つ前のプリセットを選択します。プリセットリストはサーチ結果によって変わりますが、この矢印ボタンでリストを1つずつ前後に移動できます。ですので、全プリセットをこの方法でチェックしたいときは、サーチしていない状態、つまり検索ワードやタグをすべて消去した状態にする必要があります。

5.5.2. ドロップダウンブラウザ

アッパーツールバー中央のプレイセット名をクリックするとドロップダウンメニューが開きます。その中の最初のオプションはAll Typesで、その名の通りそのサブメニューには選択しているバンク内の全プリセットが表示されます。



フィルタリングの結果はサーチ条件で変わります

その下はTypesに相当するオプションです。それぞれのサブメニューにはそのタイプに該当する全プリセットが表示されます。

上下の矢印ボタンとは異なり、"All Types" のサブメニューはサーチ条件とは無関係に機能し、単純に全プリセットを表示します。その下の線以下のタイプの各サブメニューも同様で、そのタイプに属している全プリセットを常に表示します。

6. MAIN CONTROL PANEL

楽しいことが起こる場所、それがメインコントロールパネルです。Tape MELLO-FIの音作りをするためのノブやボタン等があるのがこのパネルで、次の4つのエリアに大別できます：



番号	エリア	内容
1.	Preamp [p.22]	Drive, Tone, Noiseの各コントロールと音量メーター
2.	Tape [p.25]	アナログテープの質感を調整するエリア
3.	Tape Stop [p.26]	"テープ"再生のスローダウン機能とMellotronのフライホイールのアニメーション
4.	Output [p.28]	出力ボリューム、ローパス/ハイパスフィルター、バイパススイッチ

パネルの左から右への流れがTape MELLO-FIでのオーディオ信号の流れにほぼ対応しています。つまり、各セクションのノブ類の設定は、その左隣のセクションからのオーディオ信号の音質を変化させます。

6.1. Preamp Section

プリアンプセクションには、テープサチュレーションやよりアグレッシブなオーバードライブをシミュレートするDrive回路と、Toneノブ、アナログテープのヒスノイズをミックスできるNoiseノブがあります。



6.1.1. Drive

アナログテープの魅力的な質感といえばサチュレーションで、テープに高レベルで録音することで生じることのある心地よいタイプのハーモニックディストーション(高調波歪み)を指します。テープに含まれる磁性体が入力信号を最大限に再現しようとする状態がまさに飽和した状態となります。Driveノブを右へ回していくとサチュレーションが増大していきます。

6.1.1.1. Boost Button

Driveノブのすぐ下にあるボタンが点灯しているときは、Drive回路に入力する信号レベルを最大11dBブーストします。これによりテープサチュレーションを超えて、Mellotronをビンテージのチューブギターアンプに接続してフルボリュームにしたような歪みの世界に突入します。

6.1.1.2. Automatic Gain Compensation - 自動ゲイン補正

DriveノブやBoostボタンの状態に関係なく、Tape MELLO-FIは自動ゲイン補正が常時動作します。これにより、Driveノブを極端なセッティングにしても、出力信号のレベルは一定となりDAWのトラックでレベルが過大になってしまうようなことはありません。つまり、DAWのトラックで信号がクリップしてしまうことを心配せずに、サチュレーションやオーバードライブといった音の歪みを好きなだけ楽しむことができます。

6.1.2. Tone

Tape MELLO-FIのTone回路は、Mellotron M400のトーン回路の特性をモデリングした一種のEQとなっています。Toneノブを左へ回していくと高音域が抑えられたように聽こえますが、実際にはかなり複雑なことを行っています。Toneノブを右へ回していくとバンドパスフィルターの周波数がわずかに上昇し、それに伴いレゾナンスも微妙に上がります。この変化は極めてわずかなものなのですが、実際にはそのように動作しています。

 ♪ Toneノブを最大値から左へ回していくと、よく使い込まれて高域特性がある程度低下したMellotronのテープの特性をシミュレートできます。

6.1.2.1. Tone Button

Tone ノブのすぐ下にあるボタンで、Tone回路のオン/オフ切り替えができます。Tape MELLO-FIのその他のパラメーターによる効果をTone回路込みで、あるいはTone回路抜きでチェックしたいときなどに便利です。

6.1.3. Noise

アナログテープにとって不可避なものがヒスノイズです。そのテープがMellotronのものであろうと、カセットテープであろうとヒスノイズは少ないほうが良いとされています。ですが、このことはTape MELLO-FIには当てはまりません。つまり、ビンテージの不完全さを好きなだけ取り込むことができるのです。Noiseノブを上げていくとヒスノイズのレベルが上っていきます。

 ♪ このノイズはTone回路の前段でミックスされますので、ノイズの質感も入力信号と同時に Tone ノブで調整できます。

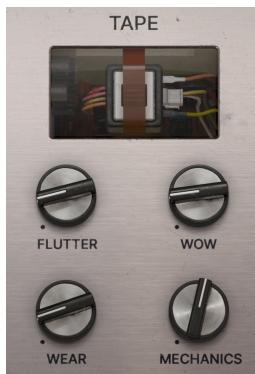
6.1.4. VU Meter



Tape MELLO-FIのVUメーターは単なるビンテージ風の雰囲気メーターではなく、入力信号に対するプラグインの効果による音量レベルの変化を高精度で表示します。トラックのdBレベルはDAWで調整できますので、それとは必ずしも同じにはなりません。このメーターは単に、本プラグイン以降でゲインの増減がなかった場合に起こりうる音量レベルの変化を表示します。これにはTape MELLO-FIの **Output** ノブも含まれますが、それはメーターの反応には反映されません。

6.2. Tape Section

Tapeセクションでは、アナログテープやMellotronの再生機構をコントロールします。微細な変化から極端な変化まで、多彩なコントロールができます。



6.2.1. Wow and Flutter

ワウとフランジャーはそれぞれWow, Flutterの各ノブでコントロールしますが、ワウもフランジャーも根本原因は同一ですのでここではまとめて解説します：テープやレコードのような物理メディアを走行/回転させてオーディオ信号を再生させるというメカニズムには本質的に欠陥があります。Mellotronの場合では、テープスピードの不安定さ、つまりチューニングが一定しない問題があります。

- **Wow**：このノブで低周期の回転ムラ（ピッチの変化）を調整します。アナログの世界では、これは正確なテープスピードの維持に関するホイールやキャブスタン、それとビンチローラーの劣化が一般的な原因で起こる現象です。
- **Flutter**：このノブで高周期のピッチ変化を調整します。ワウが低周期のいわば"船酔い"的なピッチ変化であるのに対し、フランジャーは気持ちの悪いビブラーに近い現象で、これは Mellotronやテープデッキのモーターの回転が不安定になることで引き起こされます。



♪ 2つのノブをそれぞれ低めのセッティングにすると、Mellotronらしい深みのあるサウンドになります。

6.2.2. Wear

機械式の再生システムには厄介なことがあります：何か（テープなどのメディア）は、何か（メディアに記録された情報を読取る装置）に接触しなくてはならない、ということです。そこでは当然のこととして摩擦が生じ、結果として摩耗につながります。Mellotronの場合、テープは繰り返し再生ヘッドに押し付けられますので、テープの磁性体が徐々にこすり落とされていきます。Wearノブでは、テープの状態を軽度の摩耗から擦り切れる寸前までの範囲でシミュレートすることができます。サウンド的にはピッチのランダムな変化と歪みを調整します。

6.2.3. Mechanics

Mellotronでは電気モーターで回転する重たいフライホイールを使用していました。フライホイールの惰性で、キーボードを弾いた瞬間にテープが適正なスピードで走行することができ、それによって正確なチューニングを出していました。このフライホイールもかなりの量のノイズを出し、Mechanics ノブでその量を調整できます。

6.3. Tape Stop

これがTape MELLO-FIで最も楽しい機能かも知れません。このセクションでは、DAWを再生させたままの状態で、"テープ"をスローダウン、あるいは完全に停止させることができます！その効果は、アンプの電源を切ってもまだ音が少し出している状態や、ターンテーブルをスローダウンさせて回転と同時にピッチも下がるといった感じになります。



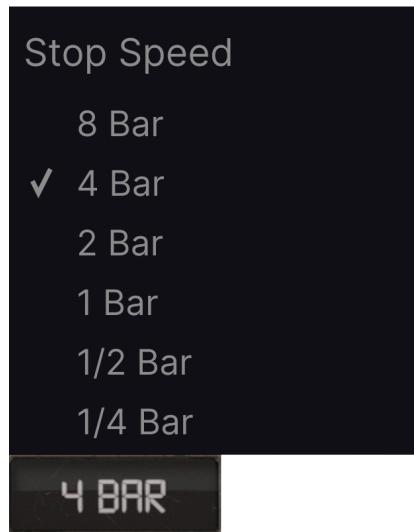
6.3.1. Flywheel

Mellotronの内部動作をフライホイールのアニメーションで表しています。このホイールをクリックしたままにすると、トラックのスピードやピッチが下がります。そのままクリックした状態を続けると完全に停止し、マウスボタンを放すと元の回転に戻っていきます。

6.3.2. Tape Stop Button

再生と一時停止アイコンのボタンで、"テープ"のスローダウンをボタン操作で行えます。この場合、マウスボタンでホイールを"止める"操作は不要です。ボタンを1回クリックするとスローダウンが始まり、もう1回クリックすると元の回転に戻っていきます。

6.3.3. Stop Speed Menu



Tape Stopボタンの右にあるメニューをクリックするとドロップダウンメニューが開き、ボタンをクリックしてから"テープ"が停止するまでの時間を設定できます。"Bar"という表示はDAWの小節数で、この機能は常にDAWのテンポと同期して動作します。



♪ Tape Stopを解除してから元の回転に戻るまでの時間は、[Tape Catch-up \[p.29\]](#)で設定できます。これは次のチャプターでご紹介します。

6.4. Output Section

Tape MELLO-FIからDAWのトラックにオーディオ信号を戻す最終段階が、このアウトプットセクションです。



6.4.1. Bypass Switch

大型のオン/オフスイッチがTape MELLO-FIのバイパススイッチです。これは単なるバイパススイッチですのでこれで音色が変化するということはありません。また、DAWによってはプラグインのバイパスを操作するスイッチがあるものもあります。

6.4.2. Output

このノブでTape MELLO-FIからDAWのトラックに戻すオーディオ信号のレベルを調整します。デフォルト設定は0dB、いわゆる"ユニティゲイン"で、入力信号と同じレベルです。このノブの可変幅は、-70dB～+10dBです。



♪ Output ノブは、Tape MELLO-FIのその他のコントロール類や自動ゲイン補正の後段にありますので、その設定はDAWトラックのレベルに確実に影響します。

6.4.3. Filter

Tape MELLO-FIには、1ノブでローパスかハイパスで動作するフィルターがあります。このノブを回すとカットオフリケンシーが変化します。ノブのセンター位置（12時の位置）から左へ回すとローパスフィルターとして動作し、センター位置から右へ回すとハイパスフィルターとして動作します。センター位置でフィルターがかかっていない状態になります。



♪ このフィルターは信号経路の最終段、Output ノブの直前にあります。そのため、Tape MELLO-FIのオーディオ信号は必ずこのフィルターを通ります。♪ スペック愛好家のあなたに：このフィルターは12dB/Octのスロープで、カットオフリケンシーのレンジは70Hz（ローパス）から10kHz（ハイパス）です。

7. THE LOWER TOOLBAR

Tape MELLO-FIの画面最下部には、色々なユーティリティ機能が入ったロワーツールバーがあります。これらのユーティリティ機能は腕利きのメカニックや職人のようなものです：愛想はないかも知れませんが、困ったときには本当に頼りになります。

Output: Sets the output volume of the plugin Stereo Width Tape Catch-up Instant Bypass 1%

ロワーツールバーは見た目がかなりほっそりとしていますし、図や数値でご紹介するタイプの機能ではありませんので、単純に左から右へ機能を1つずつ見てていきましょう。

7.1. Control Description Area - パラメーター説明エリア

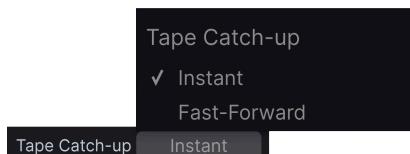
ロワーツールバー左端には、**パラメーター説明エリア** [p.9]があり、ノブやボタン、アイコン、その他のコントロール類にマウスオーバーするとその簡単な説明が表示されます。

7.2. Stereo Width

このボタンをオンにすると、**ワウとフラッター** [p.25]の設定が左右のチャンネルでわずかに変化します。その結果ステレオに広がった音像となります。このステレオ効果を出すには、Wow, Flutterの各ノブを最低値以外の設定にしておく必要があります。

7.3. Tape Catch-Up

このボタンをクリックするとドロップダウンメニューが開き、**Tape Stop** [p.26]を解除してから"テープ"が元の回転に戻るまでの時間を設定できます。



- **Instaqt** : 解除した時点で瞬時に元の回転スピードに戻ります。
- **Fast-Forward** : 元の回転スピードに戻るまで少し時間がかかります。

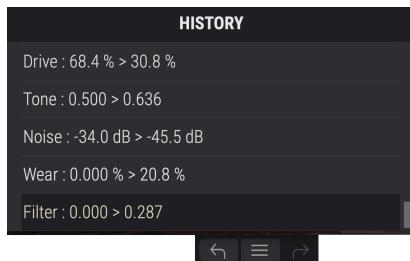
Fast-Forwardにセットした場合、"テープ"スピードが徐々に上がって元のスピードに戻ります。その時間は**Stop Speed Menu** [p.27]の設定の半分で、実時間はDAWのテンポによって変わります。

7.4. Bypass

このボタンはプラグインのバイパスボタンで、メインコントロールパネルにある大きなオン/オフスイッチ機能は同じです。

7.5. Undo, Redo, and History

プラグインで音作りをしていると、ちょうどいいスポットを通り過ぎてしまい、その時の良い感じの音色に戻す方法が分からなくなってしまうことがあります。他のArturiaプラグインと同様、Tape MELLO-FIにもアンドゥリドゥ、エディット履歴がありますので、いつでもエディットしてきた道をたどることができます。



7.5.1. Undo

左向きの矢印ボタンをクリックすると直前のエディットに戻ります。繰り返しクリックするとそれ以前のエディットに1つずつ戻っていきます。

7.5.2. Redo

右向きの矢印ボタンをクリックすると、直前のアンドゥを取り消して再実行します。アンドゥを複数回行ったときは、このボタンを繰り返しクリックしてそれ以前のアンドゥを1つずつ再実行していきます。

7.5.3. History

2つの矢印ボタンのセンターにある横3本ラインのボタンをクリックするとエディット履歴が開きます（上図参照）。ここにはTape MELLO-FIで行った操作が1つずつすべて記録されています。リスト内のアイテムをクリックすると、そのエディットを再実行するだけでなく、最初にそのエディットを行った時点のプラグイン全体の状態に戻ります。

7.5.4. CPU Meter

ロワーツールバーの右端にはCPUメーターがあり、Tape MELLO-FIが消費しているCPUパワーの量を表示します。ここではTape MELLO-FIのみのCPU消費量を表示しますので、DAWのCPUメーターの代わりにはなりません。

7.5.5. Panic

CPUメーターにマウスオーバーすると、PANICという表示が出ます。これをクリックすると、オールサウンドオフコマンドを送信します。これは瞬間的なコマンドですので、DAWが再生中のときは音は再開します。深刻なオーディオの暴走、例えばディレイがフィードバックループでおかしくなってしまったなどのときには、DAWの再生を停止して問題を起こしているプラグインをオフにしてください。



♪ ロワーツールバーのさらに右端には、プラグインの画面ズーム状態によってはマキシマイズビュー [p.12]ボタンが表示されることがあります。

7.6. Have Fun!

本マニュアルの冒頭でも申し上げましたが、Tape MELLO-FIはシンプルながらもパワフルなプラグインで、少ないパラメーターでも音色を大きく変化させることができます。これで、すべてのパラメーターや機能をすべてご紹介しました。最後に私たちからのメッセージを：Tape MELLO-FIを心ゆくまでお楽しみいただき、このプラグインを使って魅力的で新しい音楽をぜひ作ってください！

8. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンサー料(お客様が支払ったアートリア製品代金の一部)により、アートリア社はライセンサーとしてお客様(被ライセンサー)にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社(以下アートリア)に帰属します。アートリアは、本契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用することを許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後にのみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストールすることによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。これらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本製品(すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ)を、購入日から30日以内にご購入いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有します。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行為を、アートリアへの書面による許諾無しに行なうことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本ソフトウェアをネットワーク上で使用することは、同時に複数のプログラムが使用される可能性がある場合、違法となります。お客様は、本ソフトウェアのバックアップコピーを作成する権利がありますが、保存目的以外に使用することはできません。本契約で指定され、制限された権限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリアは、ソフトウェアの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリアは、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下のサポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリアは、サポート(ホットライン、ウェブでのフォーラムなど)の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後にインターネットを介していくても行なうことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的のために個人データの保管、及び使用(氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど)に同意するよう求められます。アートリアは、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になっています。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざんすることはできません。

6. 権利の譲渡と著作権 お客様は、本ソフトウェアを使用するすべての権利を他の人に譲渡することができます。以下の条件を満たすことを条件とします。(a) お客様は、他の人に以下を譲渡します。(i) 本契約および(ii) 本ソフトウェアとともに提供され、同梱され、またはプリインストールされたソフトウェアまたはハードウェア、本ソフトウェアに関するアップデートまたはアップグレードの権利を付与したすべてのコピー、アップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを含む。(b) お客様が本ソフトウェアのアップグレード、アップデート、バックアップコピーおよび旧バージョンを保持していないこと。(c) 受領者が本契約の条件に同意していること。(c) 受領者が、本契約の条件およびお客様が有効なソフトウェアライセンスを取得した際のその他の規定を受け入れること。

本契約の条件に同意しなかったことによる製品の返却（製品のアクティベーションなど）は、権利譲渡後はできません。権利を譲渡した場合、製品の返却はできません。また、ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェアの改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がもたらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要があります。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップグレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソフトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポートの権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。

8. 限定保証 アートリアは通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディスクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたします。ソフトウェアのすべての默示保証についても、購入日より30日間に制限されます。默示の保証の存続期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アートリアは、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリアが提供する補償はアートリアの選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリアにソフトウェア購入時の領収書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、默示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリアまたは販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリアは、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間接的な損害（業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む）について、アートリアが当該損害を示唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、默示保証期間の限定、間接的または付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があり、上記の限定保証が適用されない場合があります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行使することができます。